

翻訳で学ぶ英語と文学

大学英語教育における翻訳文学の可能性

中川映里

1. はじめに

本発表の目的は、大学英語教育の教材として日本文学の英訳作品を用いる意義を示し、その具体的な活用方法を提案することである。日本文学の英訳作品を用いた英語教育の実践報告はこれまでに示されているが、その教育的意義や効用が論じ尽くされているとはいいがたく、取り上げられている作品も限定的である。本発表ではまず翻訳研究の知見から、日本文学の英訳作品を英語文学の一部と捉えて英語教育に用いる教育的意義と社会的意義を示す。その上で、具体的にどのような効用があるのかを議論し、日本文学の英訳作品を英語文学教材の有力な候補の一つとして位置づけることを目指す。同時に、現代文学の英訳事例を紹介することで、作品選択の幅を広げることにも貢献したい。

2. 英語文学としての日本文学英訳作品

英語文学は狭義の英米文学だけでなく、広義の「英語で書かれた文学」(原田, 2017, p. iii)を意味する言葉だが、一般的に「英語で書かれた文学」として扱われるのは「もともと英語で書かれた文学」であり、日本文学の英訳作品を英語文学に含めることは自明ではない。しかしながら、別の言語から英語に翻訳された作品も文学として読まれているのであれば、翻訳文学として「英語で書かれた文学」に含めるべきだと考える。

「翻訳文学」という用語は比較文学研究において「文学」として認知され、読まれ、日本文学の流れの中に取りこまれ、それを書き換える可能性を秘めたもの」(井上, 2012, p. 3)と定義されており、外国語から日本語に翻訳されて文学として読まれている作品は、翻訳文学として日本文学の一端に位置づけられている。日本では翻訳文学が国語の教科書に掲載されることも珍しくなく、翻訳文学もまた日本文学の一部であるという認識がある程度浸透していると言えるだろう。一方、英語圏では文学研究において長らく翻訳が排除あるいは軽視されてきた歴史があり、日本とは事情が異なる。だが、翻訳研究の発展などによってそうした状況に変化がもたらされ、近年、英語圏の文学界でも“Translated Literature”すなわち翻訳文学が存在感を強めている。2023年にはPEN Americaの翻訳委員会がマニフェストを公表し、翻訳と翻訳者の重要な役割が広く認知されるよう文学に携わるすべての人(作家、翻訳者、編集者、出版者、教員、読者など)に対して行動を起こすことを求めている(PEN America Translation Committee, 2023)。つまり、現在はまさに英語文学とそれを取り巻く社会の中で翻訳文学の価値と翻訳者の役割や地位の見直しが進んでいる最中だと言える。翻訳文学である日本文学の英訳作品を「英語で書かれた文学」として大学の授業で取り上げることは、英語文学の現状を伝えるという意味で教育的意義があると同時に、望ましい社会変革を推し進めるという意味で社会的意義のあることだと考えられる。

3. 大学英語教育における翻訳文学の効用

大学英語教育の主たる目的とされるのは実践的な運用能力の育成だが、同時に言語そのものに注目し、その構造や機能について分析する「メタ言語能力」の育成も重要視されている(森住他編, 2010)。日本文学の英訳作品を言語教育に用いた先行研究では、英訳と日本語原文の比較を通じて「ことばへの気づき」(大津, 2010, p. 25)を促し、「メタ言語能力」を養うことができると指摘している(ショルティ・柁木, 2018; 染谷, 2010)。たしかに、翻訳の際には各言語文化の要請に応じて必然的に原文との「ずれ」が生じるため、原文と訳文の比較によってそれぞれの特徴が浮き彫りになるという点で、翻訳文学はことばそのものに意識を向けさせる活動に格好の教材と言える。本発表ではさらに、高等教育における英語教育という観点で考えた場合、ことばを意識化させることにとどまらず、学習者を学術研究へと導くような授業展開が望ましいと考え、具体的にことばのどのような側面に気づかせるのかについて、学問領域への接続という観点から次頁表1のように整理した。気づきの対象となることばの側面や関連する学問分野を網羅してはいないが、本発表で扱う具体例の全体的な見取り図として、言語学が扱うことばの側面から文学研究にかかわることばの側面までさまざまな学びにつながることを示している。

加えて、日本文学の英訳作品が実践的な運用能力、とくに英語での発信力の向上にも資する教材だと主張する。現代日本文学の英訳作品には日常的に使われる連語表現や慣用表現が頻出し、日本語原文と合わせて読むことによって日本語と英語の対応関係を確認しながら表現を習得することができる。同時にすぐれた英訳から日本語の思考を英語に変換する手法を学ぶことで、発信力の向上が期待できる。先述のメタ言語能力の育成と学術研究の導入は翻訳文学一般の効用と言えるもので、英語で書かれた原文とその日本語訳を用いることでも同様の学びを得られるが、英語での発信に役立つ手法や表現の習得については、日本文学の英訳作品ならではの効用と言える。

表1 翻訳と原文の比較による「気づき」の対象

言語学的側面					文学的側面		
構成要素〈素材〉			構造〈組み立て方〉		使用のあり方		
音	表記	語句	文 語順 品詞 修飾関係…	文章 結束性 一貫性 談話標識…	用法 事態把握 対人機能 言語変種 言語使用域…	文体 語彙選択 文構造 韻律 修辞技法…	語りのしくみ 語り手/聞き手 構造 視点 話法…
音韻論	書記論	形態論 語彙論	文文法 統語論	談話文法 文章論	語用論 社会言語学 認知言語学	文体論	物語論

以上三点の効用について作品からの抜粋を用いて具体的に示した。扱う事例は①川上弘美「鼯鼠」/Michael Emmerich 訳“*Mogera Wogura*”②宇佐見りん『推し、燃ゆ』/Asa Yoneda 訳 *Idol, Burning*③川上未映子『夏物語』/Sam Bett & David Boyd 訳 *Breasts and Eggs* ④芥川龍之介「蜘蛛の糸」/Jay Rubin 訳“The Spider Thread”の四作品である。

(作品の書誌情報は配布資料に掲載したが、ここでは紙幅の都合上やむを得ず割愛する。)

①からはタイトルと冒頭の一部を取り上げ、表記の効果、英語の複数形や句動詞、日本語のオノマトペなど語句と音に関する気づきが得られること、文の組み立て方や文章のまとまりを作る方法、話法、直示表現について理解を深められることを示した。②の冒頭からの抜粋では、人称代名詞の有無に注目することで、日本語と英語の事態把握の傾向について認知言語学の知見を紹介することができる。若い世代に使われる慣用表現を多く習得できることも本作品の魅力である。③からは大阪弁で書かれた箇所を取り上げ、英訳との比較を通じて方言の文体的効果について考察できることを示した。さらに本作品には、日本語の漢字の使い分けが英語では語彙と形態素を使って表現されている箇所があり、表記の機能や語句の成り立ちへの気づきを促すこともできる。④は語りのしくみに意識を向けられる作品として取り上げた。英訳の冒頭に読者へ語りかける一文が加筆されていることに注目し、日本語原文の丁寧な文末表現に含意される語り手と聞き手の存在を英語で表現する工夫だと分析した。日本語原文では言語化されていない語り手と聞き手の姿を英訳では明確に捉えられるため、物語論の方法を導入するのに適した作品と言える。また、日本語と英語の対人調節機能の違いという言語学的な議論へ導くことも可能である。

4. まとめ

日本文学の英訳作品を大学英語教育の教材として用いることには、英語文学の現状を伝えるという教育的意義とともに望ましい社会変革を推し進めるという社会的意義もある。その効用としては、日本語原文との比較検討を通じて、言語学的なことばの側面に学習者の意識を向けることでメタ言語能力を育成すること、文体や語りの構造など文学的な側面への意識を高めることが挙げられる。具体的なことばへの気づきから言語学や文体論、物語論など学術研究の知見へ導くことも可能である。同時に学習者は、日本語と英語の発想の違いに気づき、英語らしい表現を習得することで、英語での発信に役立つ知識を身につけることができる。今回扱った事例のほかにも注目すべき作品が数多くあるため、今後も幅広く英語文学教材としての可能性を探究していきたい。

参考文献

- 井上健 (2012). 序にかえて—翻訳文学への視界 井上健 (編) 翻訳文学の視界: 近現代日本文化の変容と翻訳 (pp.3-12) 思文閣出版
- 大津由紀雄 (2010). 言語教育の構想 田尻英三・大津由紀雄 (編) 言語政策を問う! (pp.1-31) ひつじ書房
- ショルティ沙織・柁木貴之 (2018). 「ことばへの気づき」を促す大学英語授業: 映画を教材として 東京大学大学院教育学研究科紀要, 58, 427-443.
- 染谷泰正 (2010). 大学における翻訳教育の位置づけとその目標 外国語教育研究, 3, 73-102.
- 原田範行 (2017). はしがき 日本英文学会関東支部 (編) 教室の英文学 研究社
- 森住衛・神保尚武・岡田伸夫・寺内一 (編) 大学英語教育学会 (監修) (2010). 英語教育学大系第1巻 大学英語教育学: その方向性と諸分野 大修館書店
- PEN America Translation Committee. (2023, April 10). *The 2023 Manifesto on Literary Translation*. PEN America. <https://pen.org/report/translation-manifesto/>